



session 4

CBL所蔵資料を読む + α 狂歌摺物ほか





【テキスト】

※J_2820 浅草庵市人・葛飾北斎狂歌摺物

・ Katsushika Hokusai, Asters and pampas grass, CBL J 2820

https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2820/1/LOG_0000/

※J_2028 六樹園石川雅望・岳亭八島狂歌摺物

・ Yashima Gakutei, Poets Masazumi, Hakaze and Abō visiting Rokujuen

https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2028/1/LOG_0000/

※J_2822 北野鞠塙（百花園主人 きたのきくう）・嘉魚俳諧一枚摺

・ Kagyo, Sazanka flower and ceremonial stand, CBL J 2822

https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2822/1/LOG_0000/

※J_2819 宗理（北斎）狂歌摺物

・ Katsushika Hokusai, Women of the Daimonjiya watching a cuckoo, CBL J 2819

https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2819/1/LOG_0000/



狂歌の人物を探すには

○狂歌現在奇人譚（版本）

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100000947/>

[Top](#)[浮世絵文献資料館](#)[浮世絵師総覧](#)

狂歌人名辞書

底本：『狂歌人名辞書』狩野快庵編・臨川書店・昭和五十二年（1977）刊
原本：『狂歌人名辞書』狩野快庵編・広田書店・昭和三年（1928）刊

【あ】

☆ あつまる こがねの 小金 厚丸

○『狂歌人名辞書』p6（狩野快庵編・昭和三年（1928）刊）
*黄金厚丸、神田庵、落穂庵、藤樹園、世の屋、六史園等の数号あり、姓武藤氏、通称伊勢屋吉兵衛、名は忠司、東都神田に住し始め千秋庵に字ひ、後五側の判者となる、五十九歳にして不断庵を向島にむすびて閑居す、狂歌に遊ぶこと五十年、四方に遊歴すること四十五ヶ国に及ぶ、文政十二年十月十日歿す、浅草新堀端西福寺に葬る。

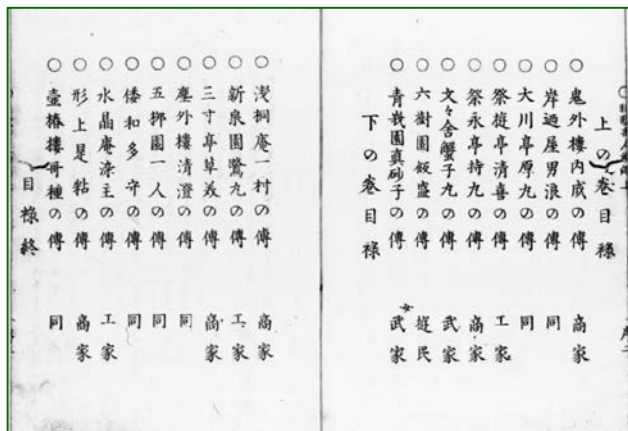
☆ あやまる ふでの 筆 綾丸

○『狂歌人名辞書』p8（狩野快庵編・昭和三年（1928）刊）
*筆綾丸、通称喜多川勇助、則ち東都の浮世絵師歌麿狂歌の号、文化三年九月二十日歿す、年五十三、浅草北松山町専光寺に葬る。

☆ あんど かいげつどう 懷月堂 安度

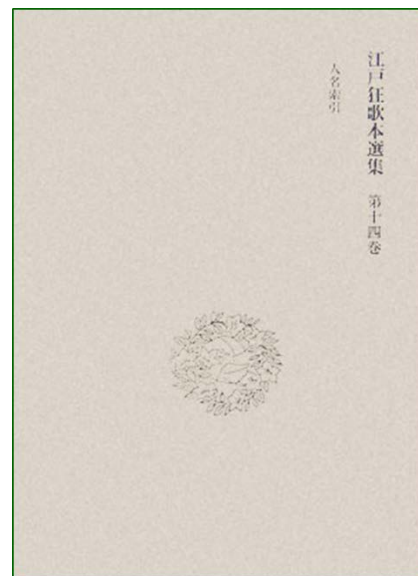
○『狂歌人名辞書』p238（狩野快庵編・昭和三年（1928）刊）
*懷月堂安度（ヤスノリ）、通称岡沢源七、字は安度、又、安慶、東都浅草諏訪町に住せり、好んで浮世絵をゑがき其美人画には一種の風致あり、門人多し「花街漫録」には元和中浅草に住せる浮世絵の祖と記し「古画備考」には元線より少し古しとあり、其作画には日本戯画懷月安度図之と落款す、延宝頃の人。

<https://www.ne.jp/asahi/kato/yoshio/kyoukajinmeijisyo.html>



○狂歌人名辞書狩野快庵編（広田書店1928.2、臨川書店が複製刊行）↓WEB上の「浮世絵文献資料館」でデータ公開

○江戸狂歌本選集（東京堂出版第十四巻）人名索引
※江戸狂歌本の翻刻資料集（明和から安政に至る代表的資料集成）





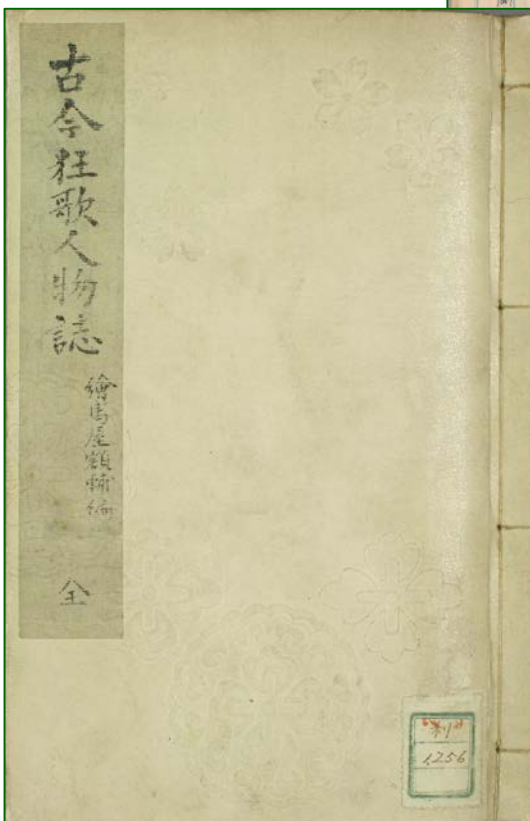
狂歌の人物を探すには

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2540383>

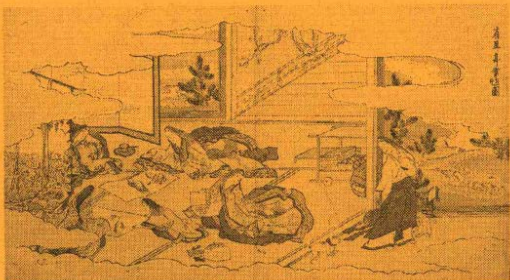
有梅庵光村	浅桂園土の界の側	湯島住	土屋重次郎
六樹園飯盛	名海屋子子相五老の跡と跡手と土屋島住	大徳元年三月十四日歿年七十八歳松崎院	石川七兵衛
六樹園一盛	初名二盛葛原の土麻布屋町住	明治二年 月 日歿	平岡善政
六糸園二葉	名從里子子松舟松野と跡とせ字田川	町は安政五年九月十四日歿	槌屋文四郎
六帖園雅雄	桐・雅雄と元上州馬崎の人 別号樽壺	浅草橋念寺と屋敷	大谷雅雄
六十軒一長	号守口再 四條殿二橋住		早川長吉
六藏耳守冬	元上毛大岡々人 浅草住 壺側判書	文政九年七月八日歿年三十二	小森谷嘉吉
六徑園里直	武州川越住		町屋勘次郎
六體園盛澄	初号三橋成		
蘆菴一馬	別号馬廻子 壺側		

狂歌人物誌

古今狂歌人物誌



中央大学所蔵 狂歌関係書解題目録



中央大学図書館

https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/he09/he09_01256/

https://www.chuo-u.ac.jp/uploads/2018/11/8808_kyoka.pdf



Yashima Gakutei, Poets Masazumi, Hakaze and Abō visiting Rokujuen





狂歌一枚刷 1_2028
岳亭(画)

下毛板荷 蘭亭正住

のしもちのみゝにきけよと鶯も
はるはふる巢をたちそめにけり

鷹羽風

さほ姫の入内あそばす元日に

南山師阿房

東坡巾みじかいまゝにやぶれけり

六樹園



狂歌一枚刷 1_2028
岳亭(画)

下毛板荷 蘭亭正住

のしもちのみゝにきけよと鶯も
はるはふる巢をたちそめにけり

鷹羽風

春雨はあまた雫をたらちねのゑ
みやなづる青柳の髪

南山師阿房

さは姫の入内あそばす元日に
はゝきもとらぬとものみやつこ

六樹園

東坡巾みじかいまゝにやぶれけ
りうばがあだ名の春の夜の夢





Kagyo, Sazanka flower and ceremonial stand, CBL J 2822

J_2822 俳諧一枚摺 嘉魚〔十丈主人〕

ゝ兒見せや湯気たつ河の朝ぼらけ 松江

ゝ よしを

ゝ雁鴨も来よ加茂川のみづの味 坂東 岩子

ゝ笛吹て兒に霜敷夜ふねかな 市紅

ゝ 来芝

ゝ手打連顔はさきよや雪見月 中山 喜樂

年々歳々花やか相似たり歳々年々狂言同じから
ず

ゝ兒見せや年がよるとはおもわれず 六十六翁 榮
太良

顔見せの登りを思ふ

ゝ 伊賀 猿来

ゝはや／＼と白粉たつや水仙花 信樂 芙九

小雪をさそふ朝風も暖くおもふ兒見せの太鼓の
ひゞきも嵐につどひてほのめきわたる暁の鐘は
上野か浅草歟と頻にことになん

ゝ雪見する人は年よれ冬のうめ 春坡

ゝ名を聞も嬉しき花のふゆ牡丹 芹水

あらいさましの兒見せのけしきやな

ゝ世の中のふりや千どりも朝きけむ ひの しめい
ゝ寒ひとは鷗もしらじ今朝の雪 〃 まさを

舞台の花やかなるはむかしも今も智らざりけり
ゝおとらじと咲揃ひけり室のうめ 杜蓼

ゝ 江戸 栄三

ゝ雪の夜やしぐるゝ癬を耳にまで 大坂 愚珊

折から聞へたる二景坂本にて

ゝ 大坂堂島 米彦

ゝ 江戸角田川 鞠塙



Kagyo, Sazanka flower and ceremonial stand, CBL J 2822

J_2822 俳諧一枚摺 嘉魚〔十丈主人〕

ゝ兒見せや湯気たつ河の朝ぼらけ 松江

ゝ一めに暁白しはしの霜 よしを

ゝ雁鴨も来よ加茂川のみづの味 坂東 岩子

ゝ笛吹て兒に霜敷夜ふねかな 市紅

ゝかたよらぬ姿もやさし水仙花 来芝

ゝ手打連顔はさきよや雪見月 中山 喜樂

年々歳々花やか相似たり歳々年々狂言同じから
ず

ゝ兒見せや年がよるとはおもわれず 六十六翁 榮
太良

顔見せの登りを思ふ

ゝ舟の灯のしらけて少し冬の雨 伊賀 猿来

ゝはや／＼と白粉たつや水仙花 信樂 芙九

小雪をさそふ朝風も暖くおもふ兒見せの太鼓の
ひゞきも嵐につどひてほのめきわたる暁の鐘は
上野か浅草歟と頻にことになん

ゝ雪見する人は年よれ冬のうめ 春坡

ゝ名を聞も嬉しき花のふゆ牡丹 芹水

あらいさましの兒見せのけしきやな

ゝ世の中のふりや千どりも朝きけむ ひの しめい
ゝ寒ひとは鷗もしらじ今朝の雪 〃 まさを

舞台の花やかなるはむかしも今も智らざりけり

ゝおとらじと咲揃ひけり室のうめ 杜蓼

ゝ時ならぬ花のさかりや大舞台 江戸 栄三

ゝ雪の夜やしぐるゝ癖を耳にまで 大坂 愚珊

折から聞へたる二景坂本にて

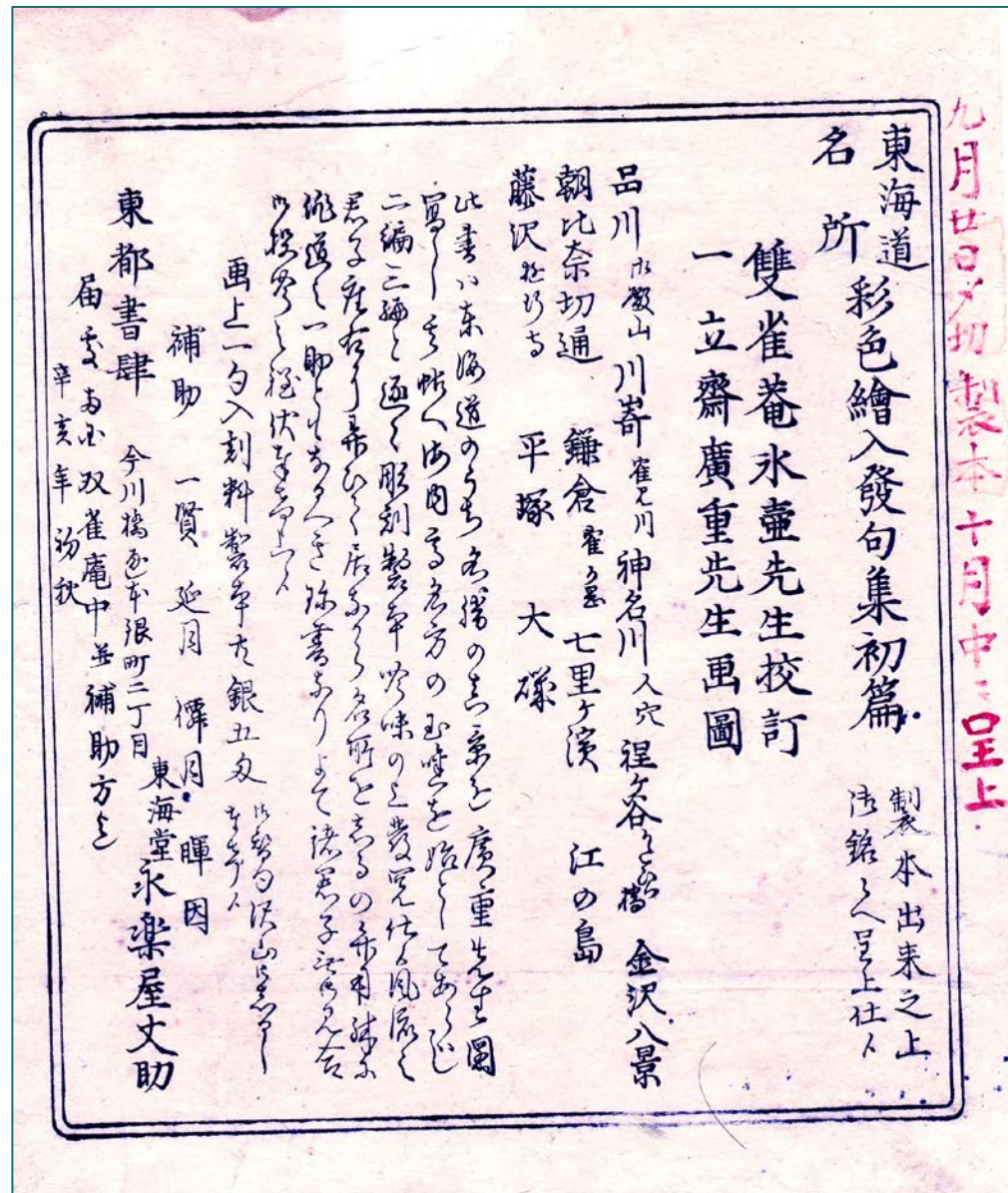
ゝ水鳥にむしろ分ふぞくさまくら 大坂堂島 米彦

ゝ花売も出るや小春のくらま口 江戸角田川 鞠塙



(参考) 投吟チラシ

此書は東海道のうち名勝の真景を広重先生図写し
其帖へ海内高名の玉喰を始としてあらはし二編三
編と遂て彫刻製本吟味の上発兌仕候風流は君子座
右に弄びて居ながら名所をしるの并用殊に俳道の
一助ともなるべき珍書なりよて諸君子無御見合御
投吟之程伏奉希上候
画上一句入刻料製本共銀五匁 御替句沢山御しる
し奉希候



著作URL : http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_1466984

著作 I D	1466984
統一書名	東海道名所発句集 (とうかいどうめいしょほっくしゅう)
巻冊	二冊
分類	俳諧 絵画
著者	双雀庵/氷壺(氷壺) 編 安藤/広重(歌川/広重/一世) 画
成立年	嘉永四刊
著作注記	〈般〉改題本に「東海道名所画帖」あり。
国書所在	【版】栗田(一冊)
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1



佐原鞠塙（さわら きくう）

「向島百花園」文化元年（1804）、佐原鞠塙（さわら きくう）骨董商の北野屋平兵衛）によって開かれた梅園。開園当初は、大田南畝（幕臣、戯作者1749 - 1823）や加藤千蔭（国学者1735 - 1808）などの文人墨客が集うサロンであったが、秋の七草などの詩歌にゆかりの深い草木類を多彩に植え込み、やがて、江戸の町人文化爛熟期の文人趣味豊かな名園として、庶民に親しまれるようになっていった。臥竜梅で名高い亀戸の梅屋敷に対して、新梅屋敷、花屋敷とも呼ばれた。

江戸遊覧花暦



の師法性阿周黎の霊神や甲の月糸糸指ありて
くま正月の初卯日そと甲と号てくま群集を
百花園 奇島村のうらぐり白猿明神の月糸糸指新
梅屋敷といふ白梅あり諸本薬中のたぐひ数多有
季候のふにけを園中み年中花たあることなり
駒込繩手 本々通り進みの多組中け外うその内か
あり或悦よこいふれ繩手ありあつていひて 苗あそ
そそとてくま路なりけ苗糸繩手ありあつていひて
往來曲行くくま路なりけ繩手ありあつていひて
茅野天神境内 芝増上寺北中松林院に安藤とる処の
て満官の境内梅ありあつていひて



Katsushika Hokusai, Women of the Daimonjiya watching a cuckoo, CBL J 2819



はつね 【初音】

その年の季節季節の最初に鳴くうぐいす・ほととぎす・鹿などの声。和歌などには、これを待ち、珍しいものとして詠ずる。初声（はつこゑ）とも。

～年月をまつにひかれてふる人に今日うぐひすのはつね聞かせよ〔源氏物語・初音〕

ほととぎす 【霍公鳥・郭公・時鳥・杜鵑・子規・不如帰】

〔名詞〕 鳥名。山野にすみ、初夏から里近くにも出て昼夜を分かつたずに鳴く。古来、季節の鳥として最も親しまれたものの一つで、鶯とともにその初音（はつね）を待つことが和歌に多く詠まれる。特に夜も鳴くことや鋭い鳴き声が人の叫び声に近く感じられることで、心配、物思い、悲しみの連想として受け取られることが多く、血を吐いて鳴くともされる。季語、夏。

〔欽定四庫全書〕『古今合璧事類備要』卷六十八宋 謝維新撰

「格物総論」杜鵑一名杜宇一名子規（略）羽鳥三四月間夜

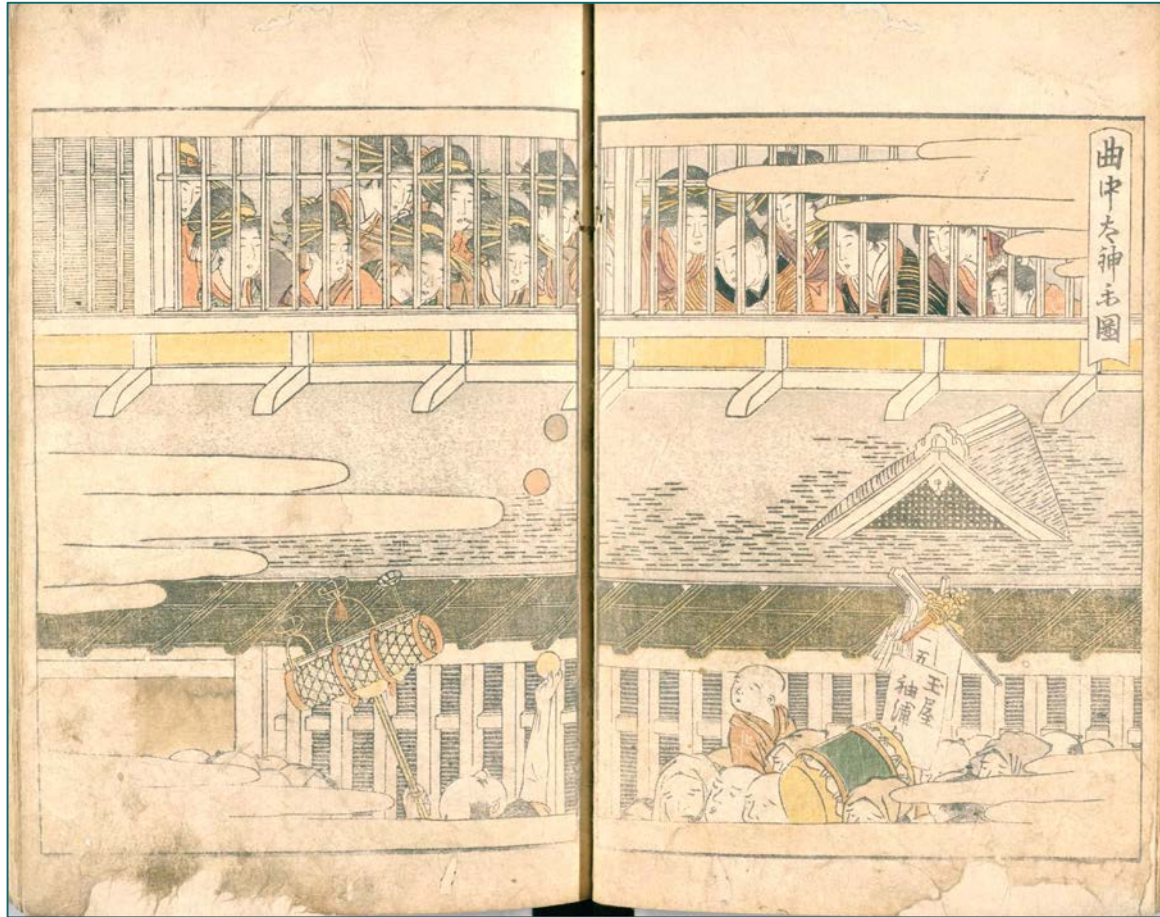
啼達旦、甌越間曰、怨鳥凡鳴皆北向其声哀

北里 吉原のこと





(参考) 妓楼の階上



青楼絵抄年中行事

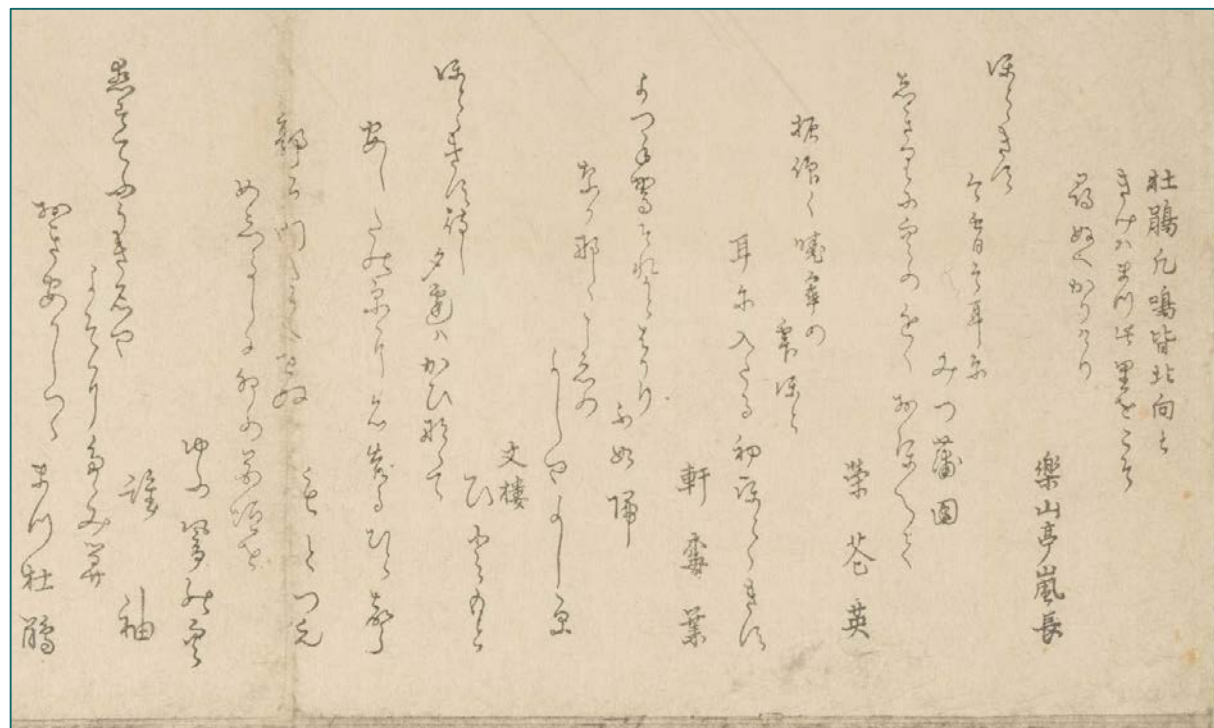


曲輪雀大通先生 (さとすずめだいづうせんせい)



Katsushika Hokusai, Women of the **Daimonjiya** watching a cuckoo, CBL J 2819

〔課題〕



杜鵑凡鳴皆北向ときけばまづ此里をこそ尋ね
べかりけり

樂山亭嵐長

①

振仰ぐ暁傘の雫ほど
耳に入れたる初ほとゝぎす

栄花英

②

ほとゝぎす待し夕辺はかひなくて
あしだの原に名告るひと声

文楼

ひともと

郭公門たがへせぬめじるしに
卯の花垣をゆふ闇の空

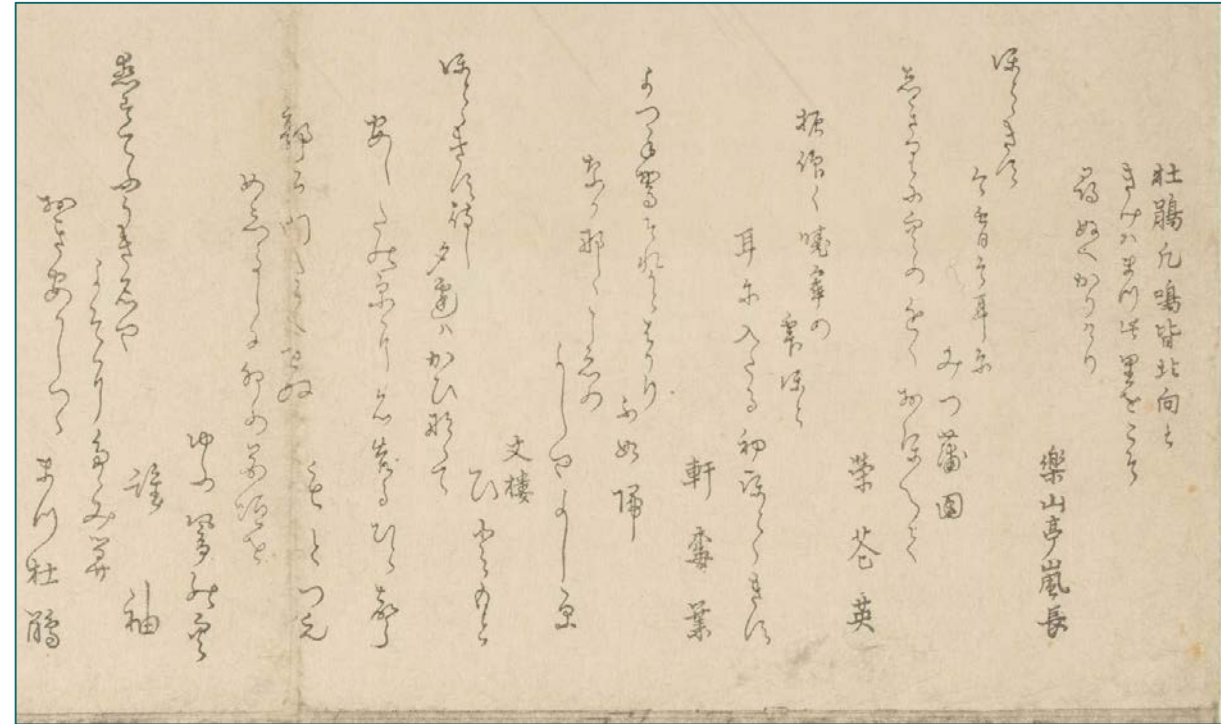
もとつえ

③

謡袖



Katsushika Hokusai, Women of the Daimonjiya watching a cuckoo, CBL J 2819



杜鵑凡鳴皆北向ときけばまづ此里をこそ尋ぬ
べかりけり

樂山亭嵐長

ほどとぎす今宵ぞ耳にみつ蒲団
しきりに雲の近くおぼへて

栄花英

振仰ぐ暁傘の雫ほど
耳に入れたる初ほとゝぎす

軒梅葉

よつ手駕それかとばかり不如歸
ながなくこゑのよしやよし原

文楼 ひともと

ほとゝぎす待し夕辺はかひなくて
あしだの原に名告るひと声

もとつえ

郭公門たがへせぬめじるしに
卯の花垣をゆふ闇の空

謡袖

恋すてふうき名やよそにたゝみ算
おきあかしつゝまつ杜鵑



〔課題〕

⑦

司馬菴光交

⑥

一声亭群鳥

⑤

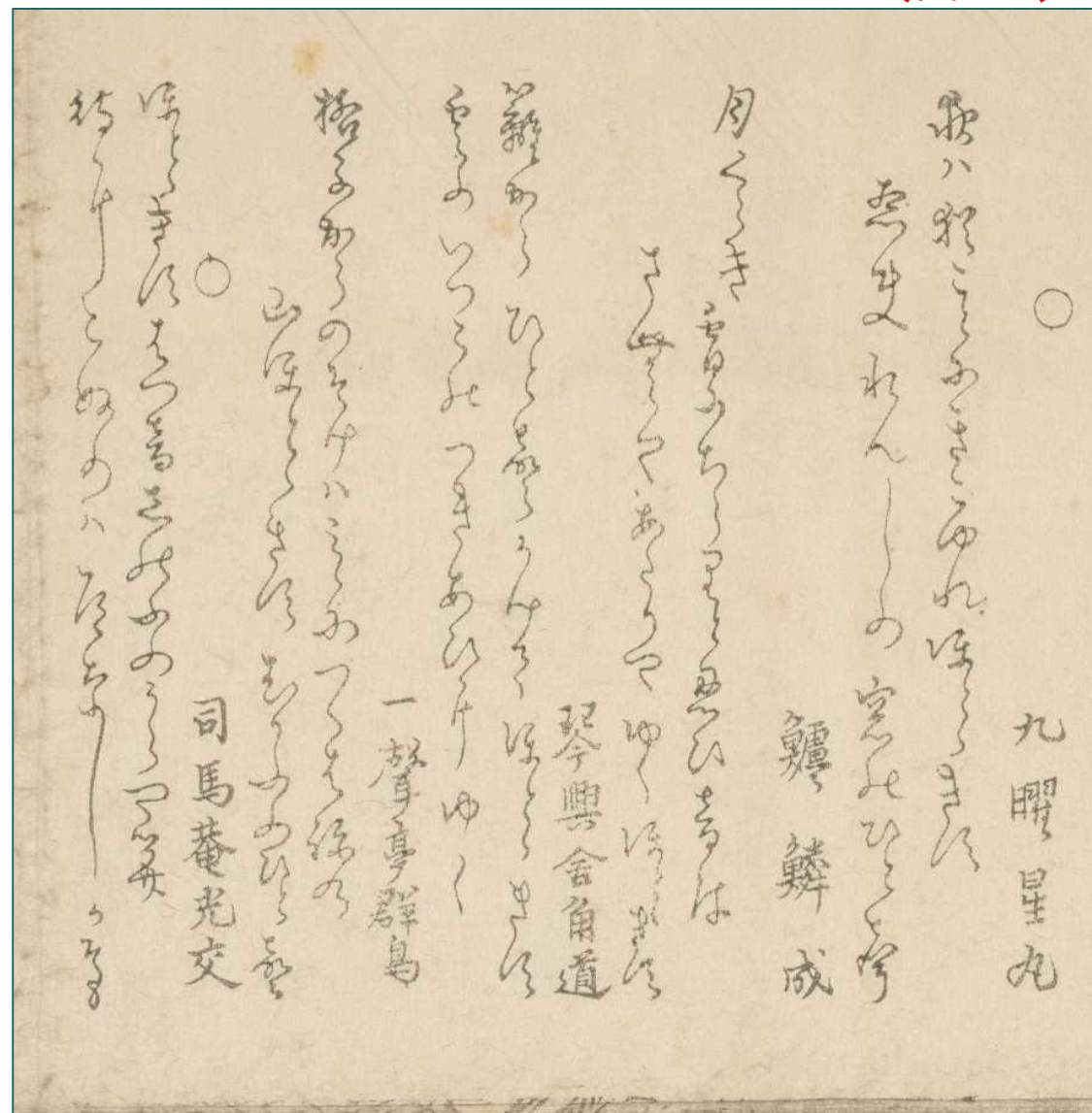
琴興舎角道

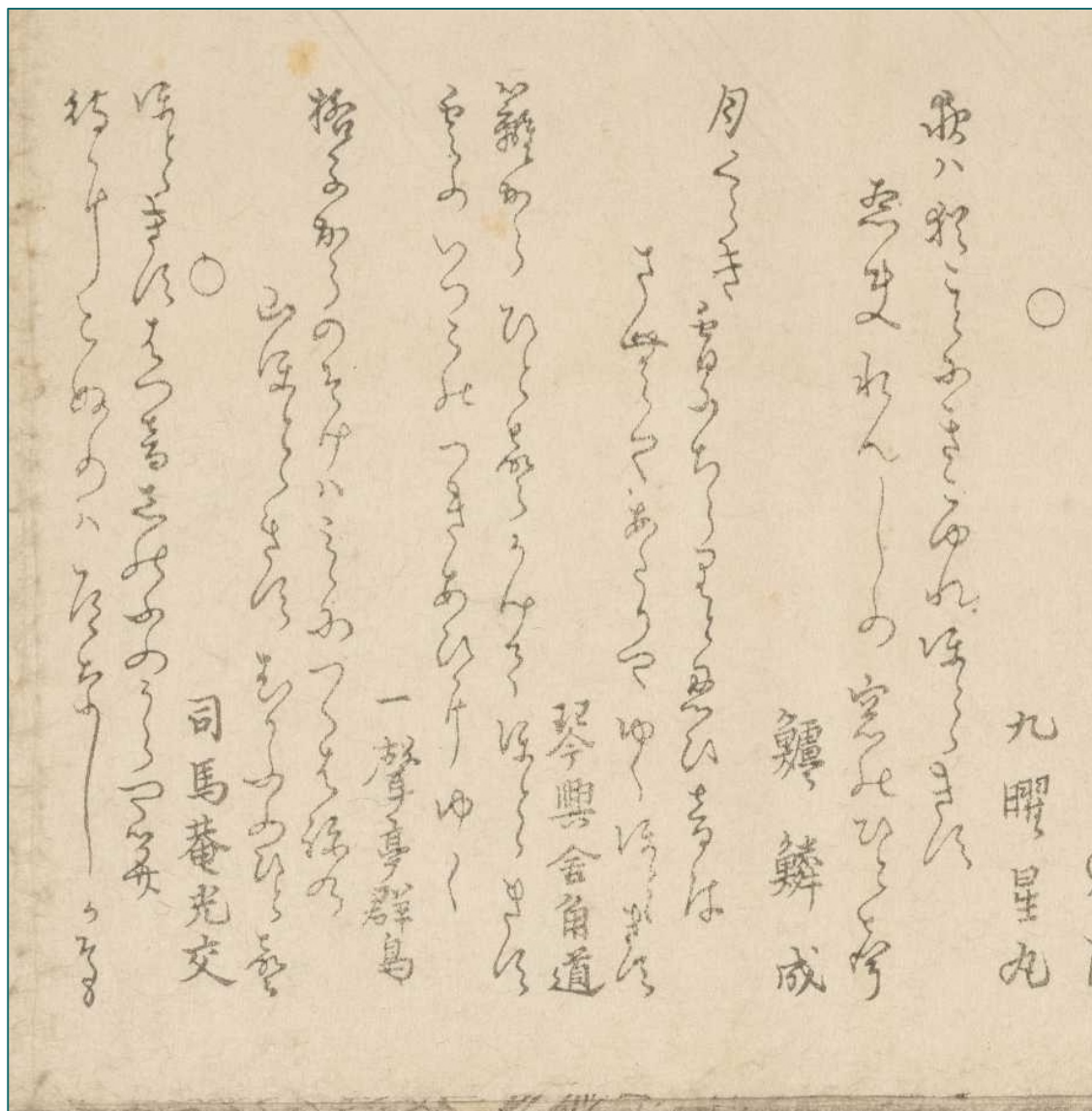
月くらき宵にちらりと忍び音は
さむやあたりやゆくほとゝぎす

④

鱸鱗成

九曜星丸





○

夜は猶ことにきこゆれほとゝぎす
恋夫れんしの窓のひと声

九曜星丸

鱸鱗成

月くらき宵にちらりと忍び音は

さむやあたりやゆくほとゝぎす

琴興舎角道

籬からひと声かけてほとゝぎす

空のいづこのつきあひにゆく

一声亭群鳥

格子からのぞけばみにつくばねの

山ほとゝぎすむかふのひと声

○

ほとゝぎすはつ音しのぶのうらや算
待にこぬのは道なしかそも

司馬菴光交



人々とおなじ心を

先大屋裏住

錢屋金埒

四方歌垣真顏

ゝ梯のかぼちやがもとにほとゝぎす
その名をなのれ音はひくゝとも
また

10

〔課題〕

附

子規を愛する

鐵屋金埒

朝
海
八

う
れ
ふ
け
あ

けみ
おとあさ

先大屋裏位

43
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526

20

文乃高之

三

四方款

真顏

櫓のあはれ

三

三
二
一

香々々々

10

[illegible]

卷之六

卷之四



京伝写

子規きゝあかしたる朝酒は
うの花汁にしく物ぞなき

銭屋金埒

けいせいの手くだの山のほとゝぎす
かけたかときく文の高どの
人々とおなじ心を

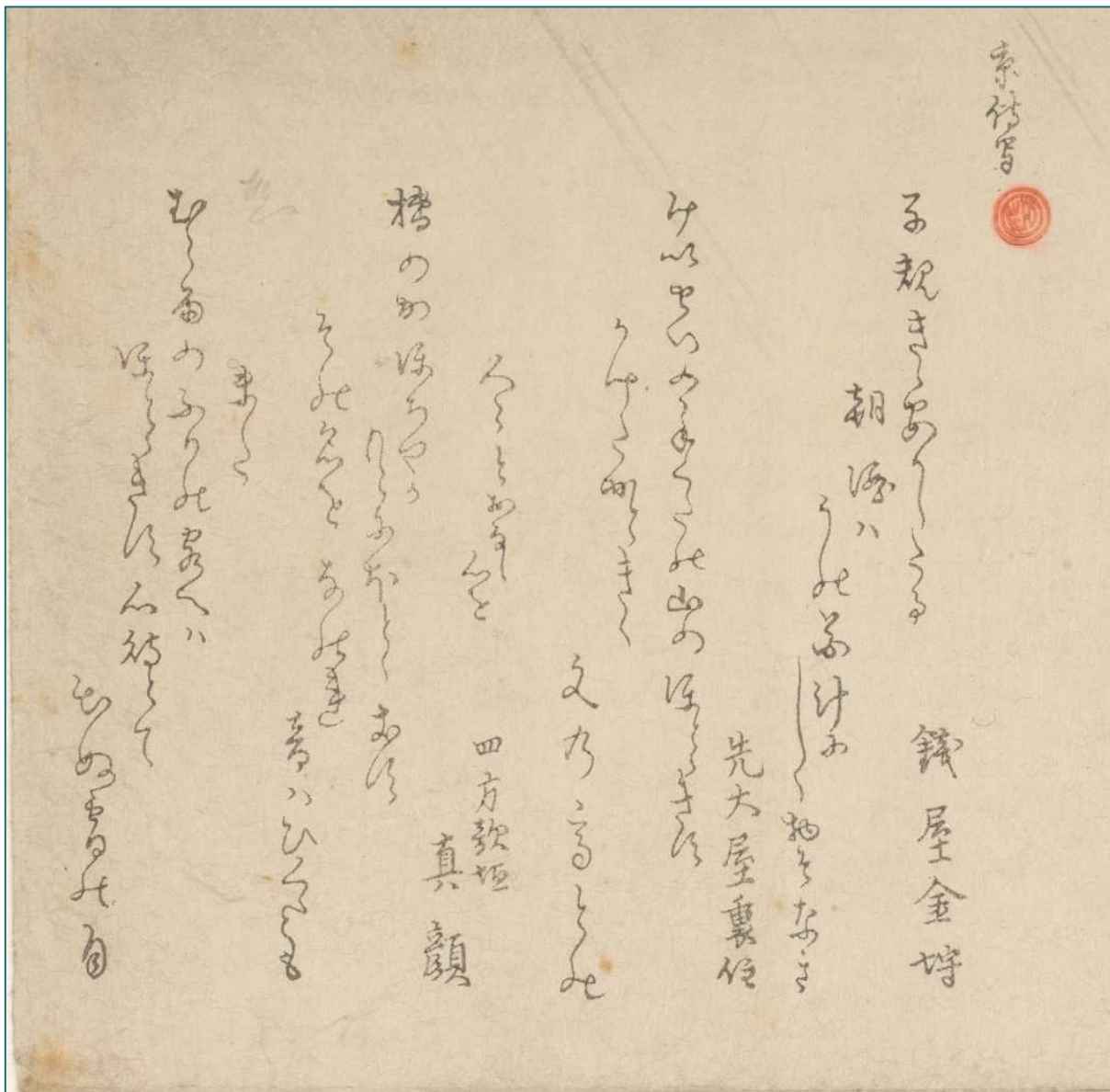
先大屋裏住

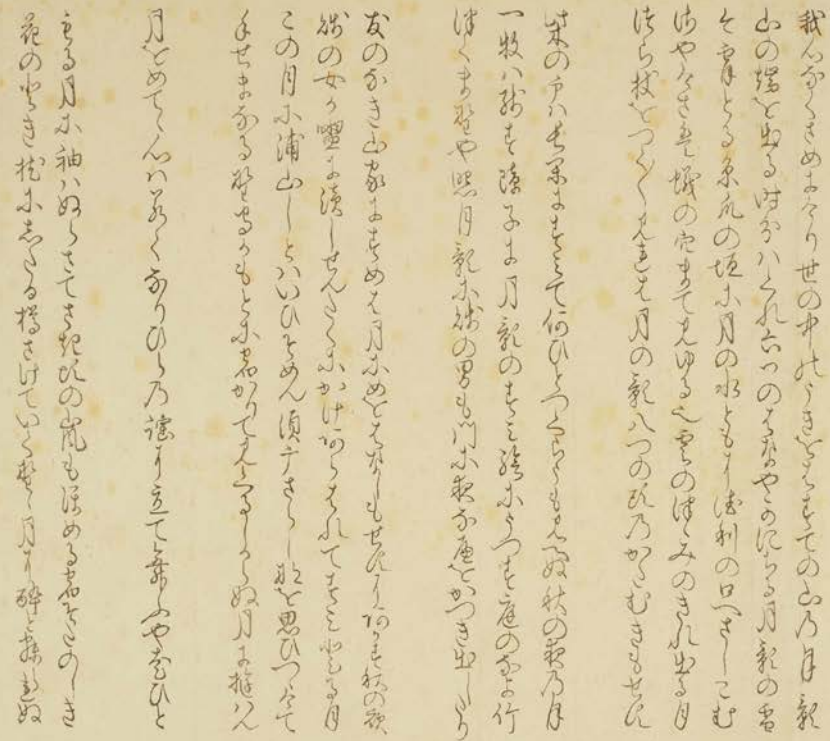
梯のかぼちやがもとにほとゝぎす
その名をなのれ音はひくゝとも

四方歌垣真顔

また

むら雨のふりの宿へはほとゝぎす
心待とて出ぬ宵の月





淺草菴市人

さる月ふ袖いぬゝさてさねみの穴もほめる者よこのさ
花のちき枕ふあゝる様さけていそぐ月一酔と妹もぬ

〔課題〕

- ① 我んかゝるめより世の中れうきとてそのはる月親
浅茅菴守全
- ② 山の煙と出る時おいとれちつのもやのにける月親の香
浅花菴皮人
- ③ ときとる東風の垣小月の水ともいふ利の口よりこむ
浅波菴河鳥
- ④ 時やなきを城の売ちてとゆるさきのけみのみきれゆる月
浅枝菴連人
- ⑤ けら枝とつくとくを月の親八つのは乃かむもせん
浅倉菴三笑
- ⑥ けらの戸はあふとていひつとくもいふ秋の親乃月
浅葉菴音芳
- ⑦ 一粒の秋を落るよ月親のともを落るつとを庭のおより竹
浅子亭市成
- ⑧ けくちやや照月親小秋の男もいふ秋を庭とつとくより
浅緑菴春告
- ⑨ 友のかき山あふとめく月ふめとそなりもせんいふも秋の親
浅呂菴牧廣
- ⑩ 秋の女う鹽は流しせんいふかけつとれてきとせむる月
浅流菴清志
- ⑪ この月小浦山といひいふとめく頃すきいふ思ひつとて
浅月堂春人
- ⑫ いせもあるせむるもいふ君かりていふいふ月を推しん
浅律菴永世
- ⑬ 月とめていふいふありのう乃憶りてきやをひと
浅瀬菴永喜
- ⑭ ちる月小袖いぬとてきれたの虎もほめる君とこのき
浅草菴市人
- ⑮ 花のちき枕ふとてを揺さけていふせく月を碎とあむぬ
浅草菴市人





Katsushika Hokusai, Asters and pampas grass, CBL J 2820

J 2820 画狂老人北斎画

我心なぐさめにけり世の中の

うきをばすての山の月影浅茅菴守舎

山の端を出る時分はくれ六つの

はなやかにちる月影の雪浅花菴皮人

今宵とる糸爪（へちま）の垣に月の水

ともに徳利の口へさしこむ浅波菴河鳥

さやけさは蟻の穴まで見ゆる也

雲のつゝみのきれ出る月浅枝菴連人

つら杖をつく／＼見れば月の影

八つの頃のかたむきもせず浅倉菴三笑

柴の戸は長閑にすみて何ひとつ

くらうも見へぬ秋の夜の月浅葉菴音芳

一牧（枚）は残す障子に月影の

すみ絵にうつす庭のなよ竹浅子亭市成

つくま野や照月影に賤の男も

門に夜なべをかつき出したり浅緑菴春告

我心なぐさめにけり世の中はうきものなり月影
山の端を出る時分はくれ六つの月影の雪
はなやかにちる月影の雪浅花菴皮人
今宵とる糸爪（へちま）の垣に月の水
ともに徳利の口へさしこむ浅波菴河鳥
さやけさは蟻の穴まで見ゆる也
雲のつゝみのきれ出る月浅枝菴連人
つら杖をつく／＼見れば月の影
八つの頃のかたむきもせず浅倉菴三笑
柴の戸は長閑にすみて何ひとつ
くらうも見へぬ秋の夜の月浅葉菴音芳
一牧（枚）は残す障子に月影の
すみ絵にうつす庭のなよ竹浅子亭市成
つくま野や照月影に賤の男も
門に夜なべをかつき出したり浅緑菴春告

浅茅菴守舎
浅花菴皮人
浅波菴河鳥
浅枝菴連人
浅倉菴三笑
浅葉菴音芳
浅子亭市成
浅緑菴春告



Katsushika Hokusai, Asters and pampas grass, CBL J 2820

友のなき山家にもめそ月ふめでそなりもせぬ月夜もわの歌
浅呂菴牧廣
おの女う鹽は清しせんくふかけのうそれてこそとやもる月
浅流菴清志
この月ふ浦山といひひそめん頃すさく思ひつきて
浅月堂春人
よせある世もろもとおもかりてそとくぬ月も抱ひ
浅律菴永世
月とめでんいありのう乃憶り立てとあやむひと
浅瀬菴永喜
もる月ふ袖はぬくそそわの光もほめるもよこのとき
浅草菴市人
花のちき枕ふさる櫓さけていく世も月も酔と持たぬ

友のなき山家にすめば月にめを

はなしもせずにあかす秋の夜浅呂菴牧広
賤の女が鹽に漬しせんたくに

かげあらはれてすみ登る月浅流菴清志
この月に浦山とはいひそめん

須磨さらしなを思ひつゝけて浅月堂春人
てぜまなる野守がもとに宿かりて

見ぐるしからぬ月に遊ばん浅律菴永世
月をめでゝ心は若くなりひらの

謡に立て舞ふや老ひと浅瀬菴永喜
もる月に袖はぬらさでさき比の

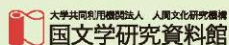
嵐もほめる宿ぞたのしき浅草菴市人
花のとき枕にしたる樽ざけで

いく野ゝ月に酔と寝られぬ



国文学研究資料館 通常展示

*本冊子の掲載資料はすべて国文学研究資料館所蔵です。
*項目番号は実際の展示と一致しますが、紙面の都合で一部の項目を割愛したため、番号が飛んでいる箇所があります。
*本冊子の掲載資料が実際に展示されているとは限りません。



<http://id.nii.ac.jp/1283/00003721/>
国文学研究資料館HPのリポジトリよりダウンロード可能

このセクションでは、和書がどのような内容から成り立っているかという観点から和書を内容的に構成するさまざまな要素について解説します。

このセクションでは、和書がどのような内容から成り立っているかという観点から和書を内容的に構成するさまざまな要素について解説します。

〔2〕書名

和書の多くには、書名(題記)が記載されています。それらは表紙にあるもの(外題)と本の内部にあるもの(内題)に大別され、内題はその位置によってさらに区別されます。

打付書き外題
表紙に直書きされ、
外題と合符する。題書

外題と書く。和書では古くは題簽を使わず、表紙に打付書きされていた。

應り題
を別り題

を別り懸養と曰ふ。

刷り外観

外種と言う。丁数の少ない、簡素な
版本によく用いられた。

內體

外題を要す

表紙に貼る紙片や布片が翳蔽で、そのうち、文字が筆で書かれたものを書き取筆と言ふ。

絵題箋

内容に關わる點が推されたものを、
類聚と言う。江戸時代中期以降、
双紙類に多用された。

見返し題
内題の一編

1000

巻首題

の「読書では、この海苔類を内題と呼ぶことゝなす。

【6】刊記・広告

版元により、千行の年月日や版元名などを記載したものが干渉です。木屑のなか
前見返しなどにあることもあります。広告は、版元による出版物の宣伝です。

刊記のうち、本部分末尾の刊記。

前見返しの刊記

と年月（またはその一方）だけの簡潔な形が普通。

蔵版記・蔵版印

伸つ着るを記したもの。印記になっているものは、麻痺印と言ふ。



書物を維持するために

和紙・絹紙で出来た書物・軸物

- ・ 銀杏の葉は外すこと
- ・ 中性紙の箱（いまは一般的）
- ・ 糊に注意 糊はエサ
- ・ 曝書（空気に曝す）
- ・ 光に注意（浮世絵）
- ・ 修補データの保持

＊和糊 正麩糊（生麩糊と書くことも）は、日本の伝統的な装幀技法である表具（表装、経師）作業に長く利用されて来た接着剤。今では文化財の修復に欠かせぬ接着剤の一つとして、海外の修復家も紙資料の修復に利用している。

⇔ 防腐剤入りは化学反応の可能性あり

<http://zokeifile.musabi.ac.jp/%E3%81%A7%E3%82%93%E3%81%B7%E3%82%93%E7%B3%8A/>

<http://www.washodo.com/sozai/nori/>

＊古糊ほど接着効果はないがそれを佳しとする

＊曝書（古書の虫干し）

日本では9月から11月中旬の晴天で、湿度55％前後の安定している日。

経師（きょうじ）関係のサイト
勉強になる！

大入

<http://www.ooiri-co.com/index.php>

修護

<https://www.shugo.co.jp/>

宇佐美修徳堂

<https://www.shutokudo.co.jp/>

宇佐美松鶴堂

<http://www.usami-shokakudo.co.jp/>

墨仁堂

<http://bokunindo.com/>

国宝修理装演連盟

上記用語で検索（ハイパーを拒否）

東洋美術学校

<https://www.to-bi.ac.jp/dept/hs/>



1300年の文字を検索（他機関と共同で公開）



<https://mojiportal.nabunken.go.jp/>



異体字セレクトセクタ

異体字セレクトセクタ (β)

<https://747.github.io/vsselector/>

文A v

説明



CHISE で「卿」を表示

GlyphWiki で「卿」を表示

Codepoints で「卿」を表示

表示	コード	セクタ	画像	コレクション	識別名
↑挿入 卿 コピー	U+537F	-	卿	基底文字	CJK UNIFIED IDEOGRAPH-537F
↑挿入 卿 コピー	U+537F	U+FE00	卿	標準異体字	CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-2F831
↑挿入 卿 コピー	U+537F	U+FE01	卿	標準異体字	CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-2F832
↑挿入 卿 コピー	U+537F	U+FE02	卿	標準異体字	CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-2F833
↑挿入 卿 コピー	U+537F	U+E0100	卿	Adobe-Japan1	CID+13719
↑挿入 卿 コピー	U+537F	U+E0101	卿	Adobe-Japan1	CID+1698

使い方の説明

<https://digitalnagasaki.hatenablog.com/entry/2017/01/18/030751>



形態素解析等のツール（国立国語研究所）

形態素解析：文を言語上の最小単位である形態素に分割し、品詞や変化などを割り出すこと

日本語歴史コーパス CHJ

中納言 コーパス検索アプリケーション

日本語歴史コーパス CHJ

短単位検索 長単位検索 文字列検索

文字列検索

検索文字列 廊 対象文字列 校訂本文 原文 結果表示単位

検索文字列では、特別な意味を持つメタ文字として以下に挙げる文字を使用できます。

- % 任意の文字列 例: 国立 % 所 →「国立国語研究所」「国立社会保障・人口問題研究所」など
- 任意の1文字 例: 日 - 友好 →「日米友好」「日中友好」「日韓友好」など
- [] 文字クラス 例: 日本 [人国語] →「日本人」「日本国」「日本語」
- [^] 文字クラスの否定 例: 日本 [^ 人国語] →「日本海」「日本史」「日本」などの

検索対象 設定を隠す

検索対象を選択 検索対象をクリア

選択辞書: 旧仮名口語, 中古和文

入力文字:
いずれのおほんときにか

結果

辞書	文境界	書字形 (=表層形)	語彙素
旧仮名口語	B	いずれ	何れ 代名詞
旧仮名口語		の	助詞-格助詞
旧仮名口語		おほん	御 接頭辞
旧仮名口語		とき	名詞-普通名詞-副詞 可能
旧仮名口語		に	助詞-格助詞

国立国語研究所 形態素解析
中納言（登録制） & Web茶まめ
& 全文検索システムひまわり

Web茶まめ: 各種UniDicを使用した形態素解析ツール

Web茶まめ: 各種UniDicを使用した形態素解析ツール

使い方

テキストを入力

いずれのおほんときにか

<http://chamame.ninjal.ac.jp/>

全文検索システム ひまわり - [青空文庫_20210401(除く 913 日本文学/小説)] - config_azozora_except_913.xml

ファイル 編集 ツール ヘルプ

検索文字列 フィルタ コーパス 検索オプション

本文 窓

前文 窓

後文 窓

検索

字体変換

クリア

no	前文	キー	後文	作品名	副題	著者	訳者	初出	分類番号	文字数	作品ID	人物ID	生年月日	没年月日	文字数
1	は見えで鳴きけり猫の恋	一匹はちゃん	一匹はちゃん	源氏物語	源氏物語	紫式部	源氏物語	1066	NDC 911	新字新仮名	055510	001310	1874-02-22	1959-04-08	45849
2	は見えで鳴きけり猫の恋	一匹はちゃん	一匹はちゃん	源氏物語	源氏物語	紫式部	源氏物語	1066	NDC 911	新字新仮名	001058	000081	1896-08-27	1933-09-21	44701

俳句の作りよう: 高浜虚子

鎌倉の源氏山の頂には大きな松が二本あります。

一匹は見えで鳴きけり猫の恋

一匹はちゃんと見えているが他の一匹は何処にいるか判らぬ。しかし鳴いているのはたしかに二匹であることを知っている場合であります。

時鳥鳴くといふ森の高さかな

この森で時鳥が鳴くと人に話されて見上げた場合であります。鎌倉でも八幡



暦変換

甲	きのえ	子	ね
乙	きのと	丑	うし
丙	ひのえ	寅	とら
丁	ひのと	卯	う
戊	つちのえ	辰	たつ
己	つちのと	巳	み
庚	かのえ	午	うま
辛	かのと	未	ひつじ
壬	みずのえ	申	さる
癸	みずのと	酉	とり
		戌	いぬ
		亥	い

Time
Information
System

HuTime

 English

解析ソフトウェア時間基盤情報資料・参考文献リンクこのサイトについて

[ホーム](#) > [時間基盤情報](#) > [暦変換](#) > 暦変換サービス

暦変換

和暦

書式指定の前に型を選択

自動

寛延二己巳歳正月吉日

暦

書式指定と型

変換

暦日(始点)

グレゴリオ暦(先発グレゴリオ暦)

C.E. 1749-02-17

[暦について](#)

[書式について](#)

左側のボックスに 平成25年4月1日 など、日付を表すテキストをそのまま入力し、変換ボタンを押してください。
複数の日付を入力する場合は、改行して次の行に日付を書いてください。100行までは入力できます。 → [使い方見本](#)

Copyright © 2012-2020 Tatsuki Sekino. All rights reserved.



<http://www.hutime.jp/basicdata/calendar/form.html>



それではこのセッションを終わりにします